

感染予防について

～病院における感染対策～



感染制御部

病院における感染対策の特徴



病院には・・・

- ・ いろいろな菌・ウイルスが潜んでいるかもしれない
- ・ 免疫(抵抗力)の低下した患者がたくさんいる
- ・ 高齢者が多く、乳幼児もいる



多くの人が集う、さまざまな人が働く場所

患者、家族、面会者、医療職者、事務職、施設関係の職員

ボランティア、業者外部委託の人（清掃・リネン・給食スタッフ等）

理美容室の人、レストランや喫茶の人 売店の人など

中には医療知識のない方もいる



病院の感染対策について

患者の
安全の確保

信頼

医療従事者、来訪者、
その他の医療環境に
いる人々の
安全の確保



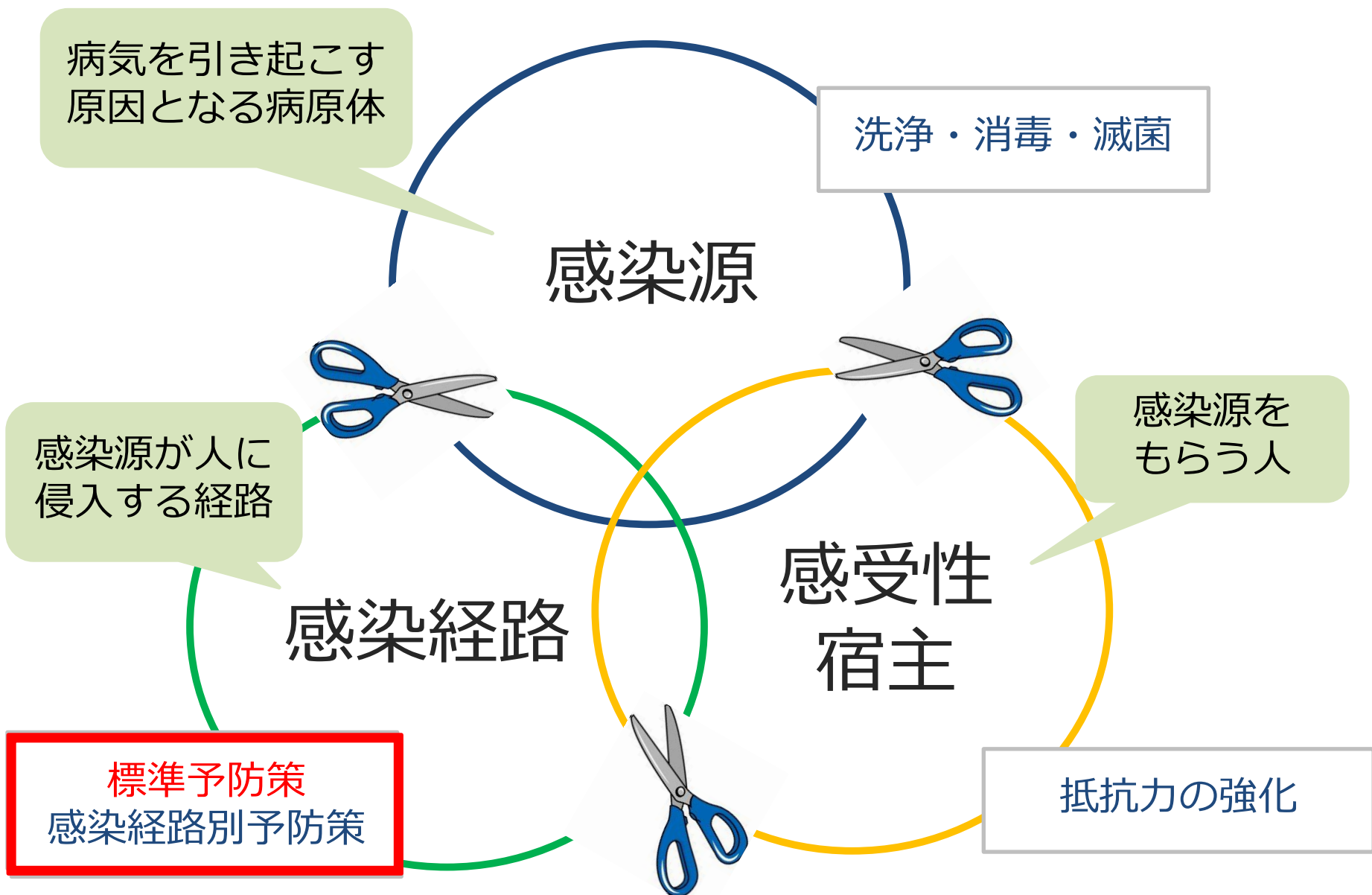
医療法

院内感染対策のための研修 2回/年

- 職員が感染源にならないようにする
- 職員自身が感染を受けないようにする



感染成立の3要素



標準予防策とは

感染症の有無にかかわらず、汗を除く血液や体液、分泌物・排泄物や傷のある皮膚や粘膜は、
感染の可能性があるというものとして取り扱う

標準予防策の目的は、
患者と実習生双方の感染リスクを減らすこと！

標準予防策で必要な手指衛生

すべての感染対策の基本となり、
感染防止に対して最も重要な役割を果たす

1. 流水と石けんを使って手洗いが必要 全行程40～60秒



- ・ 血液や体液が付着した場合
- ・ 目に見える汚れで汚染された場合
- ・ アルコールに抵抗性のある病原体に触れた場合

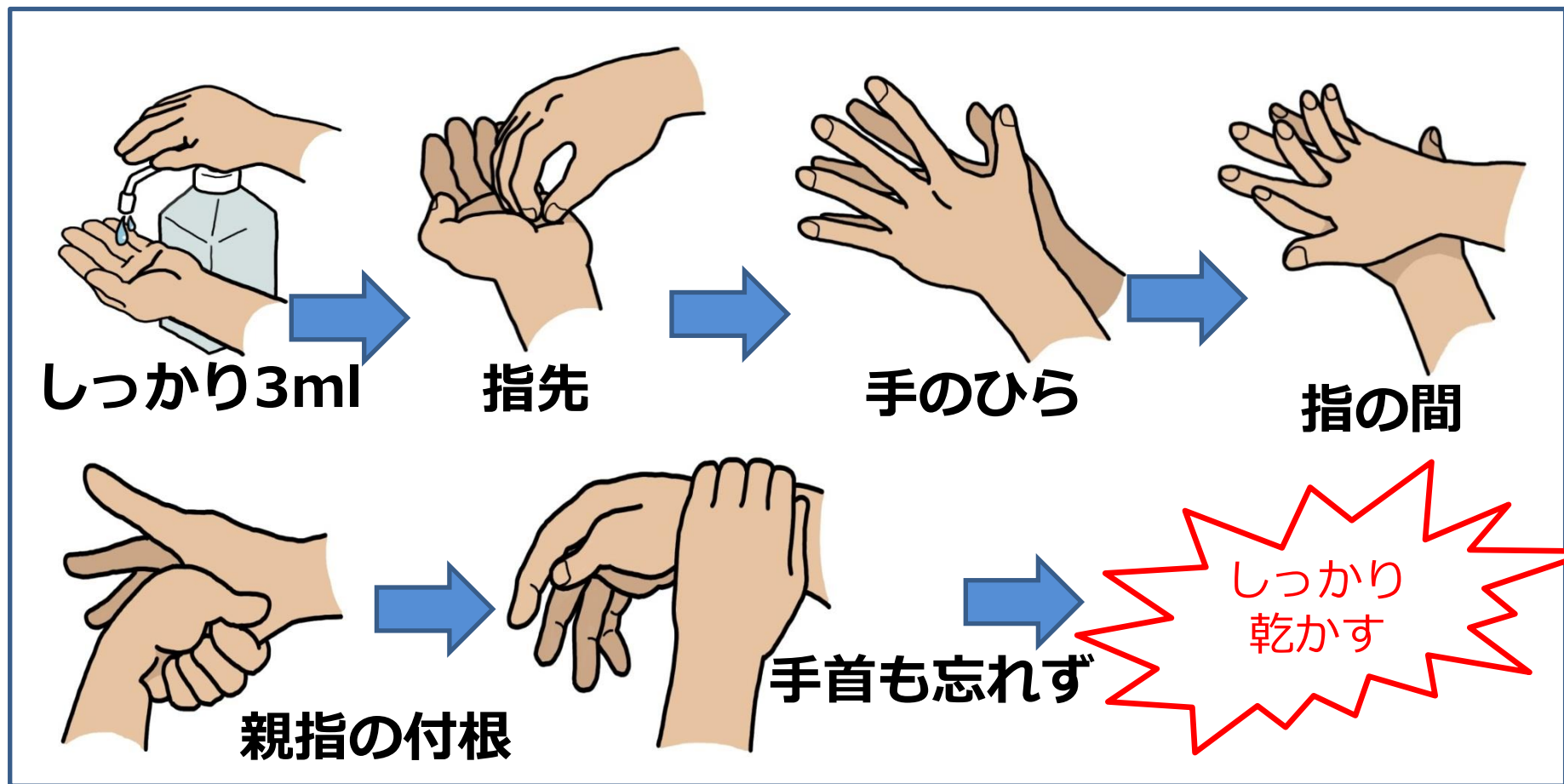
2. 擦式アルコール製剤の使用 全行程20～30秒



- ・ 手指に目に見えて汚れがない場合
- ・ 衛生的手洗いが必要な場合

手指消毒の手順

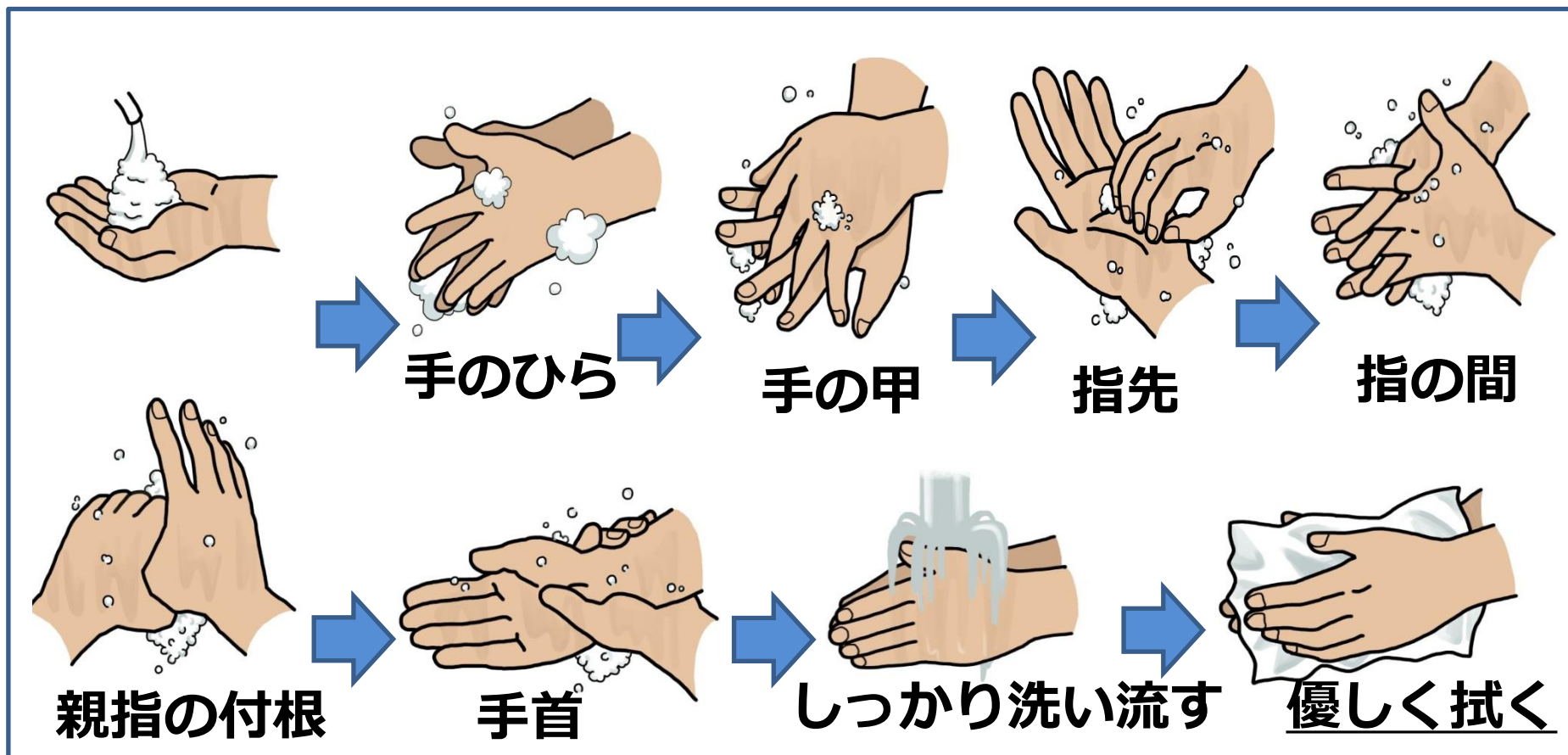
目に見えて汚染していない時はアルコール製剤で消毒
全行程 20秒～30秒



手洗いの手順

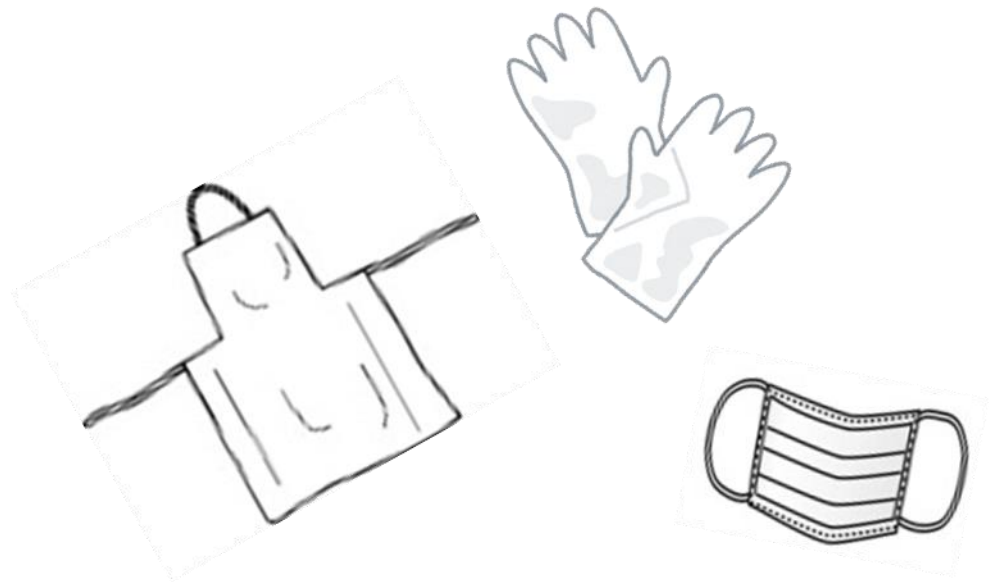
目に見えて汚れている時は石けんと流水で洗う

全行程 40秒～60秒



個人防護具を使用する目的

1. 自分を感染から守る
2. 患者への伝播を防ぐ
3. 環境の汚染を防ぐ



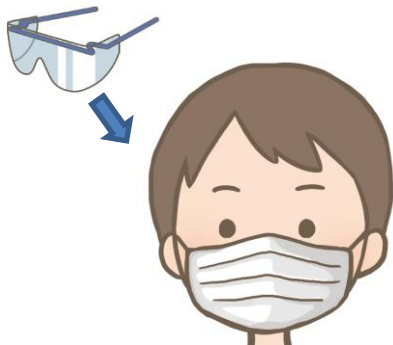
標準予防策で必要な個人防護具



手が汚染する恐れのある場合
手袋着用



ユニホームが汚染する場合
エプロン/ガウン着用



飛沫で汚染を受けそうな時
マスク/フェイスシールド
必要によりゴーグル着用

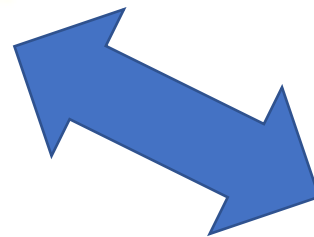
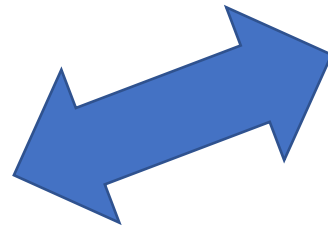
JIS規格における各種手袋の検査水準

検査項目	A Q L		
	手術用	歯科用	検査・検診用
寸法 (幅、全長、厚さ)	4.0	4.0	4.0
ピンホール試験	1.5	2.0	2.5
物性 (引張力、伸び)	4.0	4.0	4.0

J I S : Japanese Industrial Standards (日本工業規格)

A Q L : Acceptable Quality Level (合格品質基準)

手袋着用前後で手指衛生



山口大学医学部附属病院の取り組み

何が必要か考えよう

基本にかえろう

標準予防策

手指消毒しよう

手洗いしよう

令和5年度感染制御のための目標

感染制御部

令和5年3月13日以降も
引き続き
マスクの着用を
お願いします

令和5年3月13日から、マスクの着用は個人の判断に委ねることになっておりますが、当院では、患者さんの安全を守るため、また院内感染防止対策の観点から、数回のマスクの着用を引き続き継続していきます。来院者の皆様方におかれましても、引き続き、病院内でのマスクを着用いただきますよう、ご理解とご協力をお願いいたします。

正しいマスクの装着

○ 正しい装着



鼻のラインに合わせて折られている

鼻が隠れている

あごが隠れている

×



鼻が隠れていない

×



プリーツ(ひだ)が開いていない

予防する取り組み

【体調管理】

1. 体調不良時は、担当教員に相談する
2. 実習中のマスク着用、咳エチケット、手指衛生の徹底、換気といった一般的な感染症対策を行う



感染対策の基本

感染症の有無に関わらず、
すべてのひとに行う標準予防策

- 標準予防策を身につけましょう
- 基本のきは手指衛生

患者さん、自分自身、
皆さんのご家族を守るため
正しい知識と技術を身につけましょう